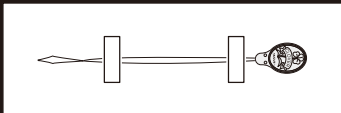


Free Stitching Starter Set

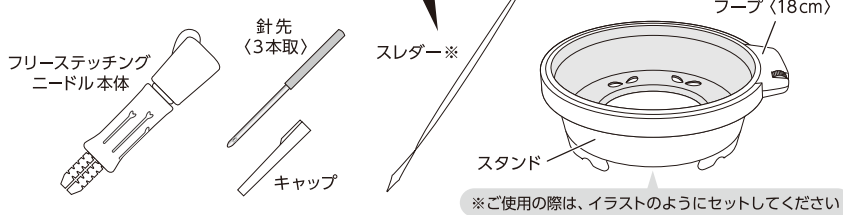
フリーステッチング
スターターセット

57-410 使い方説明書



※スレダーは、箱の側面にある台紙のウラ側にセットされています。

セット内容



※ご使用の際は、イラストのようにセットしてください

用意するもの

●適した糸

- ・25番刺しゅう糸 (3本取)
- ・レース糸 40番

●適した布 (25cm角以上) ※中肉～厚手

- ・シーチング
- ・薄手のデニム
- ・オックスフォード

※Tシャツなど伸縮する生地、織目の粗い生地、すべりやすい生地、透ける生地、合成皮革には適しません。

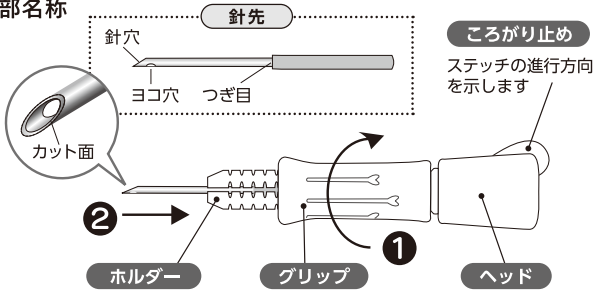
●しるし付け用品

- チャコピーを使う場合 … クロバーチャコピー (片面) (別売)、トレーサー (別売)
- 布に直接描く場合 … 水性チャコペン (別売)

- ボンド … 58-444 クロバー布用強力ボンド「貼り仕事」 (別売)

1. フリーステッチングニードルの本体に針先をセット

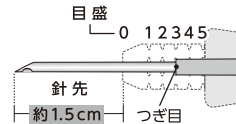
各部名称



針先を目盛3に合わせる場合

- 1 ヘッドを固定して持ち、反対の手でグリップを①の矢印方向にゆるめます。
- 2 針先をホルダーに②の矢印方向に差し込みます。ステッチの進行方向を示すため、針先の斜めカット面と、ころがり止めを同じ方向に合わせます。
- 3 針先のつぎ目を目印として標準位置 — 目盛3の位置に合わせ、グリップを①と逆方向にしっかり締めます。

針先の長さ調節

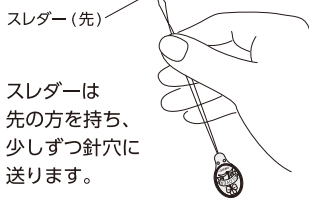


左図の目盛を目安にすることで、ステッチやループの長さを調整できます。(針先を長くすることで、ループも長くなります)

※目盛は0～5の位置の範囲で合わせてください。範囲外でのご使用は針先が外れる恐れがあります。

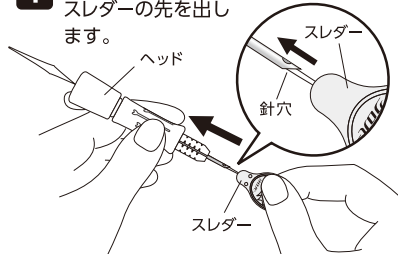
2. フリーステッチングニードルに糸を通す

POINT スレダーの持ち方

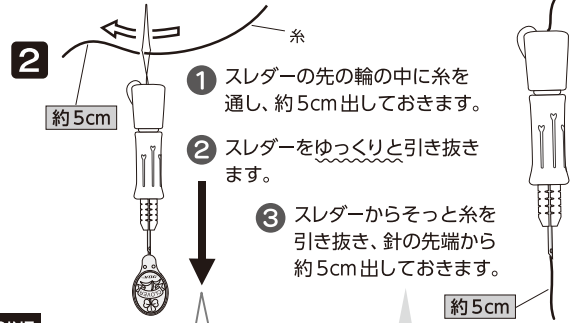


スレダーは先の方を持ち、少しずつ針穴に送ります。

- 1 スレダーを針穴から入れ、ヘッドからスレダーの先を出します。



- 2 スレダーの先の輪の中に糸を通し、約5cm出しておきます。

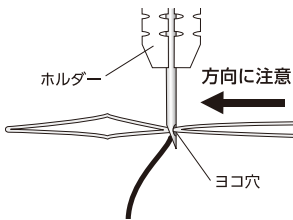


- 2 スレダーをゆっくりと引き抜きます。

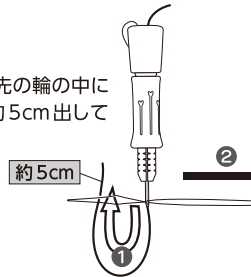
- 3 スレダーからそっと糸を引き抜き、針の先端から約5cm出しておきます。

約5cm

- 3 ヨコ穴にスレダーを通します。



- 4 スレダーの先の輪の中に糸を通し、約5cm出しておきます。



POINT

引っかかりがある場合は、一度スレダーを戻して刺しゅう糸を整えてください。
※無理に引き抜くとスレダーが破損します。

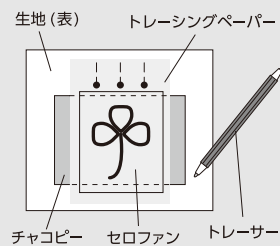
- 2 スレダーをゆっくりと引き抜きます。

※糸を通した後は、スレダーの先から糸を指でそっと抜いてください。

- 3 ヨコ穴から約3cm糸を出しておきます。

約3cm

3. 図案を写す



チャコピーを使う場合

- 1 実物大の図案をトレーシングペーパーに写します。
- 2 生地を表側にトレーシングペーパーに転写した図案のをせ、待針でとめます。
※ループを表にする時は、図案を反転させ、生地の裏側に図案を写します。
- 3 生地と図案の間に「クロバーチャコピー (片面)」を転写面を下にしてはさみます。
- 4 図案の上にセロファンを重ね、トレーサーで図案をなぞります。

布に直接描く場合



直接布に、図案を描きます。

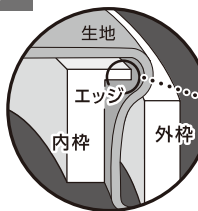
(「自然に消える」・「水で消える」)
水性チャコペンで描くと便利です。

※ループを表にする時は、図案を反転させ、生地の裏側に図案を写します。

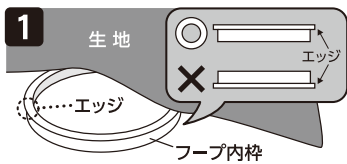
水性チャコペン

4. 生地を張る

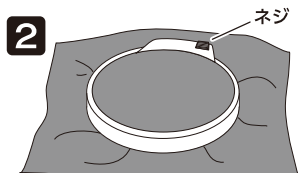
内枠のエッジ
フープの内枠についているエッジが生地をしっかりとはさめます。



生地についたフープのあとは、刺しゅうが終わってからスプレーで霧吹きをして、アイロンをかけて整えてください。
※生地によっては、フープのあとが残る場合があります。



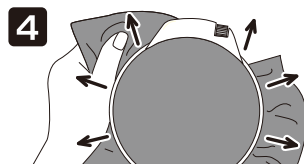
内枠のエッジ部分を上にして、生地をかぶせます。



外枠のネジをゆるめて枠を大きく広げ、1にかぶせます。



内枠のエッジが外枠にひっかかるようにセットし、軽くネジを締めます。

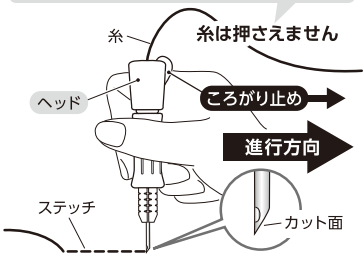


生地を引っ張り、ネジを締める動作を数回くり返し、生地をピンと張って、フープをスタンドにセットします。

5. ステッチを刺す

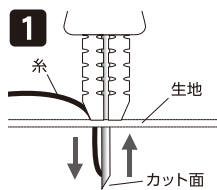
POINT 刺すときの持ち方

本体のヘッドから出ている糸を、手や物で押さえたり、引っ掛けたりしないでください。
※ステッチがきれいに刺せなくなります。

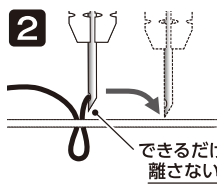


針先のカット面が進行方向を向くように刺し進めます。

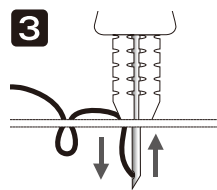
(ころがり止めを進行方向の目安にします。手前に向かって進めると刺しやすくなります)



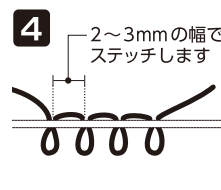
ホルダーの根元まで刺しそのまま真上に引き上げます。



針の先端を生地からできるだけ離さず、すべらすように2針目を刺します。



そのまま真上に引き上げます。



1~3をくり返します。

針先の種類ごとのステッチ幅の目安

1本取	3本取	6本取	極太
1~3mm	2~3mm	2~5mm	3~6mm

※本品には(3本取)の針先がセットされています。別売の針先(1本取)(6本取)(極太)もご利用いただけます。

いろいろなステッチの刺し方

1 バックステッチ風

2 サテンステッチ風

3 ループ※
針先の長さ: 4

3 ループ※: ベルベット調
針先の長さ: 2

※ループは生地の裏に図案を写します。

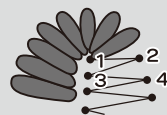
1 バックステッチ風

基本のステッチ



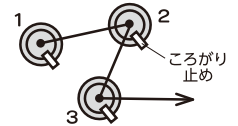
針先のカット面を進行方向に合わせて等間隔で刺します。

2 サテンステッチ風



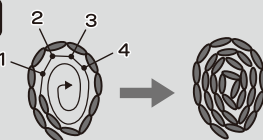
ステッチの間隔を広くします。(5mmくらいまで)

刺し方のコツ



この刺し方の場合、針先のカット面は同じ向きをままで、ジグザグに刺します。(針先のカット面と、ころがり止めは同じ方向です。)

3 ループ



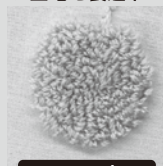
生地の裏面からバックステッチ風をします。
※図案は裏面に、表裏が逆になるようにします。

図案の外側から内側にかけて、針先のカット面の向きを進行方向に合わせて、等間隔に刺していきとループの長さが揃います。

▼ 生地を裏返すと

ループの先を全てカットしてはさみで形を整えると

ループの先を長くすると

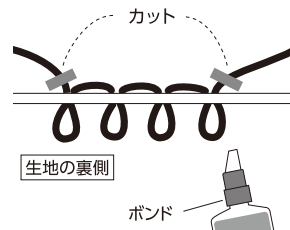


ループを長くする場合は、針先の長さを長くしてください。(1-3参照)

6. 糸始末をする

刺し始めと刺し終わりは、他の糸を切らないよう注意して、ギリギリのところまでカットします。(玉止めの必要なし)

その後、刺した糸が抜けないように裏面をクローバー布用強力ボンド「貼り仕事」(別売)で接着します。



クローバー布用強力ボンド「貼り仕事」(別売)の使用法

布用強力ボンド「貼り仕事」をステッチ部分(刺しゅうの裏面)に塗り、シリコンペーパーをあて、アイロンをかけて接着します。

アルファベットの図案は裏面です →

クロバー フリーステッチング関連商品 (別売)

- 57-406 フリーステッチングフープ (12cm) : 小さな図案を刺すときに。
※スタンドは共通でご使用いただけます
- 57-417 フリーステッチング針先 (1本取)
- 57-418 フリーステッチング針先 (3本取)
- 57-419 フリーステッチング針先 (6本取)
- 57-420 フリーステッチング針先 (極太)

詳しくは
下記の適した糸と布を
参照ください

57-417 (1本取) 針先 (別売)

適した糸

- 25番刺しゅう糸 (1本取)
- ミシン糸

適した布 ※薄手～厚手

- ブロード ・シーチング
- 薄手のデニム ・オックスフォード

57-419 (6本取) 針先 (別売)

適した糸

- 25番刺しゅう糸 (6本取)
- 5番刺しゅう糸
- 極細毛糸

適した布 ※中肉～厚手

- シーチング ・デニム
- オックスフォード

(3本取) 針先

適した糸

- 25番刺しゅう糸 (3本取)
- レース糸40番

適した布 ※中肉～厚手

- シーチング ・薄手のデニム
- オックスフォード

※3本取は、57-418 (3本取) (別売) 単品としても
お買い求めいただけます。

57-420 (極太) 針先 (別売)

適した糸

- 中細毛糸
- 刺しゅう用リボン (4mm 幅程度まで)

適した布 ※中肉～厚手

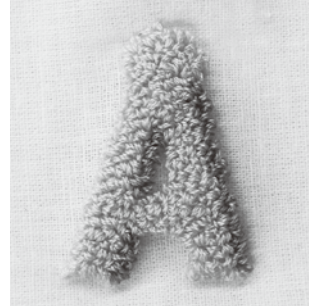
- デニム
- オックスフォード

ステッチ見本

バックステッチ風



ループ 針先の長さ : 4



※ループを表にする時は、図案を反転させ、
生地裏側に図案を写します。

フリーステッチングのチェックポイント

ステッチの糸が抜けるときには

□ 適した生地を使用していますか？

織目の粗い生地、すべりやすい生地、合成皮革、伸縮する生地は糸が抜けやすく不向きです。(絹・麻などのすべりやすい生地には、刺しゅう前に生地の裏に布製の接着芯を貼ると糸は抜けにくくなります。)

□ 専用のフープを使用していますか？

生地の張りが弱いと糸が抜けやすくなります。専用のフープをご使用ください。

□ 針先は根元まで刺して、真上に引き上げていますか？

(→5-1)

□ 針先を生地から離さないようにしていますか？ (→5-2)

□ 針先のカット面は進行方向に向いていますか？

(→1-2、5-POINT)



フリーステッチングのコツ

ステッチの目が浮いたときは

- 裏側から爪で軽くしごいて目を整えます。

生地を破らないように刺すには

- ステッチの間隔が短くならないように、また、同じ箇所を何度も刺さないようにします。
- 生地が破れる場合は、針先の太さを細くしてください。(別売の針先から選んでください) それでも破れる場合は、生地を替えてください。

ステッチをやり直すには

- 糸を引っ張って抜きます。一度ステッチをした部分は生地が弱り、刺しにくくなっています。違う場所を刺すか、爪でしごいて生地の目を揃えてから刺します。また、一度使った糸はステッチのくせがついて刺しにくくなっています。できるだけ新しい糸を使用してください。

洗濯するときは

- やさしく手で押し洗いするか、ドライクリーニングしてください。

使用上の注意 ※お使いになる前に必ずお読みください

フリーステッチングニードル

- 生地の種類によっては、無理に刺すと繊維が切れる恐れがありますので、必ず目立たない箇所でテストしてからお使いください。
- 生地の種類によっては、ステッチを刺したあとの穴が残ります。あらかじめご了承ください。
- 針先は尖っていますので、取り扱いにご注意の上、お子様の手の届かない所に保管してください。また、保管の際は必ず、針先を本体からはずしてキャップをし、本体のグリップをゆるめた状態で保管してください。

フリーステッチングフープ

- フープのネジを必要以上に強く締めたり、ゆるめすぎるとネジが変形・破損する恐れがありますのでご注意ください。
- 保管の際は、ネジをゆるめた状態で保管してください。

フリーステッチングスレダ

- 針先の規格と糸の太さによって、無理な力を加えると破損します。針先にスムーズに通せない素材の使用はお避けください。
- 保管の際は、線材部分が曲がらないように注意してください。

フリーステッチングスタンド

- フリーステッチングフープをセットした時、生地を張った状態で、フープの近く約1cmの範囲はフリーステッチングをしないでください。針先がスタンドの壁面に当たり、破損する恐れがあります。
- 生地がゆるんだ状態でフリーステッチングをしないでください。針先が底に当たって破損したり、机などを傷つける恐れがあります。
- フリーステッチングフープをセットする以外の用途では、ご使用にならないでください。

△ 注意

安全確保のため取り扱いにご注意ください。

本商品に記載の作品は、個人的に楽しむ場合を除き、無断で製作・販売することは著作権法で禁じられています。

⑨ 本商品や使い方を説明書を無断で複製し配布することを禁じます。

▼商品に不都合な点がございましたら、クロバー(株)「お客様係」までお問合せください。

クロバー株式会社
〒537-0025 大阪市東成区中道3-15-5
「お客様係」 TEL. (06) 6978-2277